

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100545		
法人名	有限会社ライフプランニング		
事業所名	グループホームひだまりの丘(ユニット1)		
所在地	釧路市白樺台2丁目8番20号		
自己評価作成日	令和 3年 11月 10日	評価結果市町村受理日	令和 4年 7月 27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174100545-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174100545-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和 3年12月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>閑静な住宅街の中にあり、過ごしやすい立地です。 季節ごとのイベント、行事も楽しんで頂けるように、職員全員頑張っています。 施設提携の病院、歯科も近くにあり、いつでも往診してもらえます。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>当事業所は釧路市の東部地域「白樺台団地」の閑静な住宅街にある木造平屋建てで、中央に玄関を挟み左右に各ユニットが設置されている。居間などの共用空間は天窓付きで明るく、日差しが入り、温・湿度など適正に管理され、清潔でゆったりとした共用空間となっている。管理者は看護師の資格を有し利用者の健康を管理している。家族も管理者が看護師なので健康管理が行き届いていると安心して居る。例年は地域の方々と共に盆踊り・花火大会・湖水祭りなどに積極的に参加して地域住民と交流していたがコロナ禍が2年続いたために2年間は参加を見合わせている。ただし事業所の畑などを利用してアクティビティを実施する工夫をしている。職員は利用者個々の健康状態を把握し、身体機能を高めるよう自ら動き、利用者も笑顔で過ごしている。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日スタッフ間同士で音読、個々の意識へ共有するように努めている。	理念を各ユニットに掲示し、毎日の唱和により職員と管理者は理念の共有を図って実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であるため、直接のコミュニケーションは取りづらくなったが、散歩時には隣人と挨拶する、地域の病院への受診等でやり取りを行っている。	コロナ禍で地域の行事などが中止となり、地域との交流が少なくなったが、散歩時や通院時に挨拶を交わすなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は運営推進会議等で報告する形が多く直接的なやり取りは減少した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内への訪問は遠慮していただいているため、主に書面での議題の提議と報告を行い、意見があった場合には取り入れるようにしている。	コロナ禍のため、定期的に書面での会議を実施している。関係者には書面会議の結果を報告し、質問や意見については職員で話し合い、サービス向上に活かしている。地域包括支援センターからはチラシ・パンフレットをもらい情報を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には連絡を取り合い、活動している。	日頃から運営状況を報告したり、後見人の件などで相談し指導、助言を得て協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会会議を開き、事例を踏まえながら身体拘束に抵触しないよう、職員全体で意識の共有を行っている。	身体拘束の適正化のための委員会で身体拘束をしないケアの実践について話し合っている。ミトン手袋や食事時の立ち上がりを防ぐための具体的例を挙げて話し合っている。利用者に合わせて身体拘束をしないケアを考え職員の意識共有を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な会議を開き、決して行わないように周知している。又どういった状況化になると起こってしまうかも検討している。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設として、必要な方には市役所を通して後見人の配置をしているが、職員の中には制度の中身を知らない者もいるため、学習機会を与えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に詳細に説明している。特に金銭面と退所時のケース等を詳しく説明し、理解してもらえようように務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見や要望は受け、あれば対応できるように努めている。	日常の会話、表情などから利用者の意見、要望を把握し、家族とは病院付き添い時や電話連絡時に意見・要望を聞いて運営に反映させている。	コロナ禍で面談を中止している。一部家族より面談の要望を受け普段の面談がいかに大切か理解している。今後コロナ禍終息後には家族会を開催するなど、家族とのコミュニケーションが多くなることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	言いやすい環境や状態にしている。意見があった場合には精査し取り入れるように努めている。	管理者は、職員が意見・提案など言いやすい雰囲気、環境へ配慮している。日々の業務を通じて意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心に、職員全体の状況を把握してもらい、必要な意見等は反映させている。勤務状況にも常に職員の意見を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の数に限っては少ないと思われる。今後の課題として取り組んで行きたいと思っている。社内での研修は多少行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて最低限行っている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な事を聞き、よく会話する事で解消できる場合もあるため行っている。しばらくの間は落ち着かない場合が多く、徐々に馴染んで行くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の段階から、これまでの過程や困っていた事案を聞きとっている。施設入所する事で家族への負担の軽減になると思っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過去の情報を元に、現在必要としている支援を提供するように努めている。施設から提供出来るものは利用してもらう様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器の片づけや掃除等を一緒に行き、出来る事はしてもらうを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望に沿った支援を心掛けている。負担増にならない様にもしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意思の尊重を優先し、手紙や電話を希望している場合は進めている。	コロナ禍で面会できないため家族とは病院付き添い時や携帯電話を活用して関係が途切れないように務めている。残念ながら夜中に電話などをするためにルールを設けて対応している。初めからダメなルールではなく、どうしたら人や場との関係が継続できるか思考錯誤して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意見が合わない者同士でも対立したりしないように職員が和ませて支援に努めている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要を求められた場合のみ対応している。					
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を優先した支援を心掛けている。希望がない場合でも、情報を元に支援している。	入居時の利用者・家族からの聞き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握し、日々の生活でのしぐさ・動き・会話から個々の思いや意向を把握し職員で共有している。帰宅願望の場合は一緒に帰る行動をサポートし途中より事業所へ帰るなどの工夫を凝らして支援に努めている。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の段階から情報をいただき、反映出来るように努めている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を送る上で、身体状況は毎日観察し出来る事をしてもらえる様に努めている。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、職員からの意見を踏まえアセスメント作成等から活かしている。	利用者、家族の意向を反映させ、毎月カンファレンスを行い、6ヵ月毎に介護計画を作成して家族に説明し確認を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、各入居者ごとに観察経過を記録し、変化があった場合はケアプランの変更に加えている。職員間の共有は毎日行われている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様なケースがあるため、出来る限り対応するように努めている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩や買い物の同行等を行い、生活に少しでも変化があるように支援している。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じた病院で対応し、支援している。	利用者・家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。職員がかかりつけ医通院に同行対応している。家族が同行して利用者と一緒にいる場合は医師に口頭で日常生活や症状を伝えたり若しくはメモなど渡す等して適切な医療を受けられるように支援している。				

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるので日々の健康管理を行い病状により、外部の訪問看護を活用し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においては、定期的な状況確認と必要な情報交換を病院側と適切に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を事前に説明し、了承頂いた状態で、状況に応じた入院又は退院後の生活の支援を行っている。	重度化した場合の指針に基づき、利用者、家族に説明し理解を得ている。重度化が認められた時は、本人、家族の意向や要望を確認し、希望に添えるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急措置は全員が学習している。定期的な避難訓練も実施し対応出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時にボランティアと連携して行っている。	ボランティア・町内会の協力を得て災害対策にあたっている。2018年のブラックアウト後はポータブルストーブも購入し備品の準備も進め食品も備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は個室のため、思い思いに過ごされている。入室時はノックしてから入るようになり、排泄時もプライバシーを尊重したケアを行っている。	言葉かけに気をつけ、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。トイレの誘導には「いいとこ行きましょうか」「景色がきれいだから見に行かない」などの言葉かけや小声での対応などプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	欲しいものや、必要な物の買い出し同行で意見をきいたりする事で、働きかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的にはあまり個人の都合ばかりを優先できないが、入浴の順番や食事の時間帯の変更などは出来る範囲で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	申し出があれば、美容院へ外出する等、また季節や気温に応じた服装の対応はおこなっている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き取り、献立に反映させているが、現状あまり意見が無いが、今後あれば反映させていきたい。	利用者の嗜好を聞きながら献立を立てている。季節食を作り提供している。コロナ禍で外での食事が出来なくなり利用者も屋外での炭焼きが好まれている。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事量、水分量は細かく観察し、健康管理は行っている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、個人に合わせたやり方で口腔内清掃、いればの洗浄を全員に行っている。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレに誘導し、排泄してもらうように支援している。	個々の排泄パターンを把握して、態度や表情に気をつけながら適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立につなげている。職員間でも排泄へ行くことをWA(WCもじり隠語として使う)としている。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を提供したりしているが、医師の指示で定期的な下剤の使用も併用している。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度個人の希望を尊重出来るように努めている。	週2回以上の入浴を基本としている。入浴が楽しめない原因には体調の悪い時・不安を抱えているとき、妄想しているときがあるようだ。このようなときは無理をせず入浴を避けて次回に回すことにしている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	処方された眠剤も活用しながら、自発的に眠気がくるのを待ったりし、支援している。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で管理し、誤薬が起こらないように気を付けている。また二重にチェックする体制にしている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	対応できる範囲で支援している。					

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出が非常に厳しかったので徐々に回数を増やし、楽しめるように支援に努めた。	コロナ禍で散歩する機会も少ないが、コロナ終息後は以前に実施していた別保公園・厚岸の牡蠣祭り・コンキリエなど復活して日常の外出支援に努めたい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には所持して頂き、自ら支払いをしてもらえる様に職員が付き添った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、支援していく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度の管理、換気等にも気を付け入居者が快適に生活出来るように努めている。	居間の天窗から暖かい陽射しが入っている。居心地のよい共有空間を作るために、雑音・熱い寒い・窮屈・薬による不安妄想が起きないようにこころがけている。利用者は居間で自分の居場所を見つけてゆったりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自身に合った場所で自由に過ごしてもらっている。季節の飾り等をして雰囲気作りも行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には思い出の品や、手放せない物の持ち込みは自由なので、思い思いな空間になっている。	家族と相談しながら使い慣れた物・好みの物を持ち込み居心地よく生活出来るように工夫している。居室でも雑音・熱い寒い・窮屈・薬による不安妄想が起きないようにこころがけている。さらに職員による声掛けを重視し様子を見ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりの設置、玄関以外の段差の解消で自由に行動出来る。今後改善出来る箇所は改善していく。		